

手術ノ爲メノ死亡率ハ九・七%、全體ノ死亡率ハ二七・三%、治癒率ハ七二・七%ナリ、手術後長ク生存セルモノヲ觀察スルニ四〇%ハ完全治癒、四五%ハ非常ニ輕快シ、一五%ハ經過不良ナリ、手術前ノ七二%ハ六ヶ月以内ニ治癒セリ。

經過不良ノモノハ主トシテ膀胱感染ノ結果ナリ、手術ノ成績ハ勿論姑息的療法ニ比較シテ卓越セルモ、腎摘出後ト雖モ結核ハ猶殘留セル事ヲ忘ル可カラズ。

### 43、子宮附屬器結核ノ臨牀的診斷ニ就テ

(春木抄)

子宮附屬器官結核ノ臨牀的診斷ハ一般ニ困難ニシテ且ツ不確實ナリ、結核性附屬器官腫瘍ハ形・硬度・位置等觸診上淋疾ト區別スル能ハズ、ドーグラス氏腔内ノ疼痛性硬結或ヒハ疼痛輕微ナル癒著ハ結核ノ場合ニハ屢々除外シ然モ非結核性子宮外膜炎、乳嚙樣卵巢、囊腫、癌ノ轉移等ノ場合ニモ現ハル、症候ナリ、結核ニ稍々特異ナルハ處女及ビ少女ニ於ケル慢性附屬器官炎ニシテ無熱或ハ微熱ノ元ニ腫瘍狀態ノ慢性ナル事ナリ、著者ノ最モ注目セルハ觸診ニヨル腹壁ノ緊張ニシテ殊ニ其境界が多少明カナル場合ナリ、然シテ腹部ハ膨滿セズ却テ陷没セル事アリ惡心、嘔吐、疼痛ハ除外ス、猶特有ナルハ一般狀態可哀ニシテ數ヶ月以上腹部緊張ノ持續スル事ナリ、一般狀態ノ好轉スルニカ、ハラズ腹筋緊弱ノ減退セザルコトハ微量レントゲン放射ヲ行フ時ニ殊ニ著シク、腹膜ノ共ニ侵サル、事多クレバ多キ程此現象明カナリ。

(春木抄)

## 會報並ニ雜報

### ○九月中新入會者

- 宮田 仁 大阪市外濱寺町字下一〇〇二
- 伊藤 勇 廣島市船入町、伊藤内科醫院
- 清水 清 輔 仙臺市帝國大學醫學部熊谷内科

### ○會員ノ訃

救世軍療養所長トシテ多年令名アリシ本會々員松田三彌氏ハ去ル十月九日長逝セラル。謹ミテ吊意ヲ表ス。

### ○有馬幹事本學會ヲ代表シテコッホ先生墓前ニ花環ヲ捧グ

オスロ市ニ開催セラレタル第七回國際結核豫防會議ニ日本政府代表トシテ出席セル有馬頼吉博士ハ九月十五日コッホ先生墓前ニ日本結核病學會ノ名ニ於テ本會評議員黒屋博士立會ノ元ニ花環ヲ捧呈セリ。

### 第八卷第七號佐藤一衛、若林捷三論文正誤

頁	行	誤	正
七四六	第一表 第二行	八・七	八・八
七四七	第一表 第五行	一八・二	一九・四
七四七	第三表 第五行	一九	一三

誤

月次	患者數	陽性者%	月次	陽性者%
六月	二	八七・五	十二月	六六・六
五月		五〇・〇	十一月	八五・七
四月		六二・五	十月	四四・四
三月		五七・一	九月	七三・三
二月		八八・八	八月	八八・八
一月		五〇・〇	七月	五〇・〇

第三十四表

七五二	第 三 行	七八・七%	八〇・六%
七五九	第 五 行	痔瘻及び急性咽喉炎等	痔 瘻 等
七六一	第 二 十 五 表 第 三 行	二九	三九
七六一	第 二 十 五 表 第 四 行	三四・一	三〇・一
七六二	第 二 十 六 表 第 三 行	九・六	一二・六
七六八	第 三 十 五 表 第 十 五 行	二・一	一一・一
七七四	第 十 行	二二・六、六、二、五、九	二九、三、七、二、九、〇、六
七七四	第 十 行	健 康 兵	健 康 人
七七四	第 十 九 行	五 二 名	五 二 名
七七七	第 四 十 八 表 第 七 行	一 〇 八	一 〇
七七七	第 八 行	一 〇	一一
七八一	第 十 六 行	四 五	四 七
七八一	第 十 六 行	A. Reuibort	A. Reinhart
七八二	第 十 五 行	A. Reuibort	A. Reinhart
七八三	第 十 六 行	Tuberkulöse Erkrankung	Tuberkulöse Erkrankung
七八三	第 十 三 行	A. Franz	A. Franz
七八七	第 二 行	結核陽性強度	結核補結反應
七八七	第 六 行	平均二六・〇	平均二六・〇

正

月次	患者數	陽性者%	月次	陽性者%
六月	三	八八・八	十二月	三三・三
五月		六〇・〇	十一月	八七・五
四月		六六・六	十月	四二・八
三月		三三・三	九月	七一・四
二月		六六・六	八月	九三・三
一月		六〇・〇	七月	四四・四